

あぁっ…
先輩…!

はぁっ…

はぁっ…

はぁっ…

はぁっ…

腰使い
すご…いつ

っ
あっ…

ううっ…

根本まで
深く飲み
込まれて…

はぁっ…

腰が浮く度
にゆるにゆるの
膣内が
吸い付いてくるっ

気持ち
良すぎて…

頭の中
チリチリ
痺れるう…

はぁっ…

あ

あ
い
ん
あ
い
ん

密着してる
ところから…っ

はぁっ…

はぁっ…

どんどん
熱く
なつてく…!

ひとり
で
待
つ
た
時
は
あ
ん
な
に
寒
か
つ
た
の
に…

はぁっ…

謝らないで
くださいっ！

それに…
僕のせいでも
ありませんからっ

僕…っ
責任
取ります！

先輩…っ

僕はっ

僕は
そうなって
くれた事ごく
嬉しいです…っ

これから二人で…







あ のっ



先輩が

どんなに
エッチに
なっても

僕は絶対
嫌いになんて
なりませんよ



その…
僕…

先輩の事

小さい頃から
ずっと好き
だったんですから



えっ
いつから!?

あ…
えっと

小学生…